



Studying abroad after COVID-19!

コロナ禍で長く直接的な海外との交流が難しかった中、今年の夏休みは、幾つかの企画で海外研修に参加する生徒がいました。

8月下旬には、三木市が姉妹都市の豪州ニューサウスウェールズ州フェデレーション市へ訪問団を派遣する事業に、3名の本校生が参加しました（感想を幾つか下に紹介します。）。なお、訪問の様子は、9月29日（金）から10月12日（木）まで、三木市立中央図書館でパネル展示されるそうです。

また、加東市在住の1年生が、姉妹都市提携を結ぶ米国ワシントン州オリンピア市を訪問しました。こちらも含めて下に感想を掲載します。



【三木市→オーストラリア・フェデレーション市】

私はニューサウスウェールズ州、ウラナでホームステイしました。（中略）日本の文化としてそろばんを紹介しました。実際にすると、とても驚かれました。「貴方にとってはとても賢い！」と褒め尽くされて、凄く嬉しかったです。今回ホームステイとしてオーストラリアに訪問しましたが、個人的にまた旅行として訪れたいなと思いました。／僕のホストファミリーは、コロワ市で牧場を経営されているご家庭でした。ホームステイ中には、朝早く起きて羊や牛を放牧地へ誘導したり、家畜に餌をやったりなど牧場のお手伝いをさせていただいたり、1日のアクティビティが終わって帰宅した後に、長男のロキとバスケットをしたり次女のシャーロットとエアホッケーをしたりなど毎日がハードでしたがとても楽しかったです。（中略）初ホームステイと初海外が重なり心配事ばかりでしたが、帰る頃には、せめてあと1週間だけでもと思えるくらいホストファミリーとも馴染むことができました。



【加東市→アメリカ・オリンピア市】

まず一番に思ったことは、アメリカ人は素直に自分の意見を言えるということです。「I think…」を使って、自分はどう思っているのかを示すことがとても多いなと感じました。私もせっかく留学という良い体験ができたので、学んできたことを学校生活、日常生活、将来に活かしていきたいです。



タイ王国訪問団、来校

9月6日（水）、タイ王国から、教育省の職員が3名、校長先生が9名、来校されました。2年生国際総合科の2名が三木の特産物で飾った「Samurai helmet」の紹介をした後、音楽（琴）の授業とお茶席とを体験していただきました。琴では「さくら」を一緒に演奏していただき、お茶もご自身で点ていただき、日本の文化に触れていただけたのではないかと思います。（写真は裏面に。）





Welcome to Miki High School!

前号ではALT 2名と、ドイツからの留学生とのお別れについて書いたのですが、9月1日の始業式では、新たに2名のALTを迎えました！以下、おふたりからの自己紹介です。（戴いた原稿は日本語（漢字+ひらがな+カタカナ）混じりでした！）

Hallo! My name is Tricelle Powell. I am from the beautiful island of Jamaica. As your new ALT. I look forward to sharing my culture with you all! While I learn the Japanese ways of life.

Hello Miki High School. My name is Edward Walker and I am a new ALT. I am from the United Kingdom. I worked in Britain as a French and Spanish teacher for two years. I speak English, French and Spanish and I am learning Japanese. Please look after me!



「バーラト」という国を知っていますか？

興味がある事だけでなく、一般的なニュースにも目を向けている人(そうありがたいですが)には簡単な質問ですが、我々が「インド」と呼んでいる国です。

実は、インドの憲法には、「英語の『India』と公用語：ヒンディー語の『Bharat』は同義語で、『インド』すなわち『バーラト』である」ことが明記されており、「バーラト」は正式な国号だということです。

なぜ今、世界で呼び慣れた「インド」から「バーラト」に変えようとする(ように見える動きがある)のでしょうか？そもそも「インド」は外名(exonym)であり、イギリス植民地時代のイメージを払拭するのが目的だと言われています。

最近ではウクライナの首都の呼称が「キエフ」→「キーウ」と変わりましたし、1980年以降の国号変更でも、「ローデシア」→「ジンバブエ」、「ビルマ」→「ミャンマー」、「グルジア」→「ジョージア」、などの例があります。

Globalな視点から、また歴史的な視点から、国や都市の呼称の変化について探究することは面白いし、有意義な取組ですよ。

〔国際・探究推進部長 田尻 淳〕